様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ２１１５５

研究課題名（和文）タイにおけるラオス人労働者の就業居住構造

研究課題名（英文）Working structures of Lao migrants in Thailand

研究代表者
丹羽　孝仁（NIWA, Takahito）

帝京大学・経済学部・講師

研究者番号：１０７３６２６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，外国人労働者の増加によるタイの労働市場の変化を明らかにすることを目的とした。第一に，タイのセンサスデータをGISによって可視化し，タイ国内の人口移動がいまなおバンコク首都圏および東タイに集中することを明らかにした。他方でラオス人労働者の分布をみると，同地だけでなく東北タイにも比較的多く就労していることがわかった。そこで第二に，ノーンカイ市とウドーンターニー市で就労するラオス人労働者へのインタビュー調査を行い，フォーマル・セクターで就労するラオス人が合法的な国際移動を合理的に選択していることを示した。

研究成果の概要（英文）：This research examines changes of labor market in Thailand affected by increasing foreign workers. Firstly, it was cleared that internal migrations in Thailand have been still direct to Bangkok Metropolitan region and East region by GIS visualization of the census data. In addition, a ratio of Lao migrant workers in Northeastern region to Thai is relatively high. Then, I conducted interview surveys to Lao migrant workers in Nong Khai City and Udon Thani City. It is thought from the data that Lao migrants who work in the formal sector make rational decision about legal migration with their passport to earn more.

研究分野：経済地理学

キーワード：労働市場　人口移動　ラオス　タイ

１．研究開始当初の背景

AEC（ASEAN Economic Community：アセアン経済共同体）が発足し，東南アジア諸国の経済統合が進む中，ヒトの移動もまた重要な要素である。中でもタイはこれまで主要な国際労働力の送り出し国であったが，ここ数十年の経済成長の下，多数の国際労働力を受け入れてもいる。

タイはこれまで，近隣の CLM（Cambodia, Lao PDR., Myanmar：カンボジア，ラオス，ミャンマー）諸国からの未熟練労働力としての不法労働者の受け入れを黙認してきた。しかし 2000 年代以降，タイの経済の基盤となりつつあるこの不法労働者を合法的な位置づけに切り替えようとし，それによってタイ国内の労働市場には変化の兆しがみられる。特に，古くから国境を越えた往来が頻繁に行われている国境周辺の都市では，外国人労働者が地域経済に果たす役割が変容している可能性がある。

２．研究の目的

外国人労働者の増加によって，タイの労働市場ではドラスティックな変化が起きると考えられるが，その変化を明らかにするためには，外国人労働者の空間的分布というマクロ構造ならびに外国人労働者のライフコースというミクロ構造の 2 つの側面からアプローチすることが求められる。

外国人労働者については，ラオス人労働者を事例として取り上げる。ラオス語がタイ語と似ているため，ラオス人労働者は外国人労働者でありながらもタイ社会に溶け込みやすく，それゆえタイの外国人労働者受入の体制が変化した際に，最も早くそれにラオス人が反応すると考えられるからである。しかし，地方都市におけるラオス人労働者の合法的な移動を取り上げた事例は限られている。そこで，東北タイにおけるラオス-タイの国境周辺の都市を研究対象地として，ラオス人労働者の実態を明らかにする。

３．研究の方法

本研究では，第一に 2 時点のセンサス（Population and Housing Census）データを GIS によって可視化し，タイ国内の人口移動を明らかにする。なお，当初は個票データを用いて外国人居住分布の解析も計画していたが，郡以下の地域別データが匿名化の対象となったため，これは行っていない。

第二に，東北タイのノーンカイ市とウドーンターニー市に居住するラオス人労働者に焦点を当て，彼らのライフコースをインタビュー調査より明らかにする。特にラオスの出身村との関連性に着目することで，人と金の動きから彼らの移動要因を検討する。また，就業実態を明らかにすることで，タイの労働市場の制度の変革がラオス人労働者のライフコースに与える影響を明らかにする。

４．研究成果

(1) タイ人の国内人口移動の分析

タイ国内の人口移動の特徴は，いまなおバンコク首都圏と東タイへの人口流入が卓越する点とバンコク首都圏内でもバンコク都から隣接県への人口移動，すなわち郊外化の動きが継続している点である（図 1）。

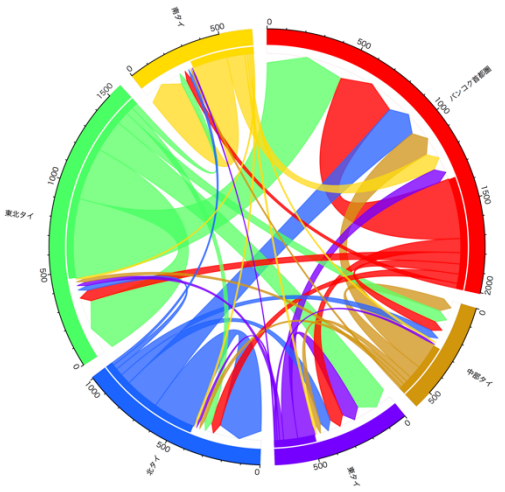

図１　タイ国内の地域間人口移動
（2005-2010 年）
出典：「Population and Housing Census」2010 年版から作成

東タイへの人口移動は，製造業が深く関係をしている。この点は 2000 年センサスの産業別就労者数と 2010 年センサスのそれを比較することで確認できる。また，東タイだけでなく全国的な傾向として，第一次産業従事者の比率が低下し，第二次産業や第三次産業に従事する者の比率が高まってきている（図 2）。すなわち，現状において東タイは海外からの直接投資の受入地となり，国内人口移動の主要な目的地となっているが，最低賃金の一律化や投資優遇税制の見直しなど国土開発政策が目まぐるしく変化する中で，農村地帯であった北タイや東北タイで製造業の発展やサービス経済化が進展すれば，今後の国内人口移動には変化が起こる可能性がある。

バンコク首都圏内の人口移動をセンサスの個票データを元に検討した結果，バンコク都からの転入超過が 53,102 人と最も多いパトゥムターニー県では，15～24 歳にかけて勉学を理由とする移動が端的な特徴で，その多くは郊外化が進んでいる大学への進学移動と捉えられる。他方で，20 歳代から 30 歳代にかけての求職移動あるいは転居による移動が総数としては多くを占め，バンコク都市圏の空間

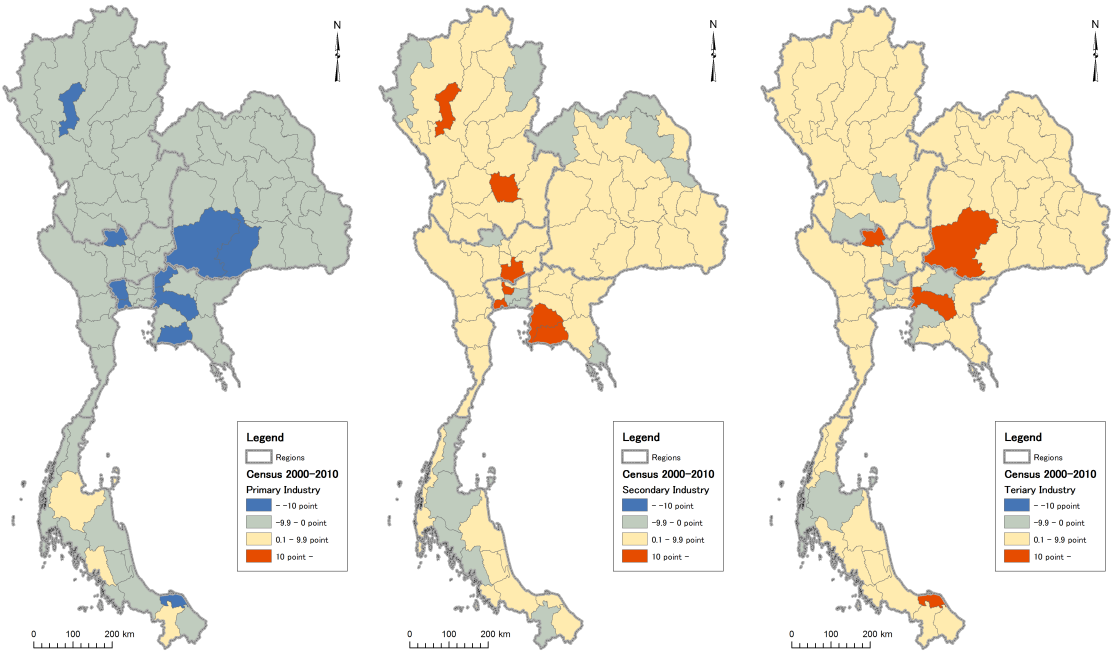

図 2　産業分野別就労者比率の変化（2000-2010 年）
出典：「Population and Housing Census」2000 年版，2010 年版より作成

的拡大が国内人口移動に変化をもたらしていると理解できる。

他方で，タイ国内におけるラオス人労働者の分布を確認すると（図 3），タイ人の人口移動と同様に，バンコク首都圏や東タイへの集中が確認できる。これらの特徴はタイ人と同様に産業構造で理解できるが，それに加え，東北タイでの労働者数の大きさが特徴的である。また労働者数の内訳を確認することで，東北タイの県の中に入国段階から合法的に移動しているラオス人労働者の比率が高いところがあるとわかる。

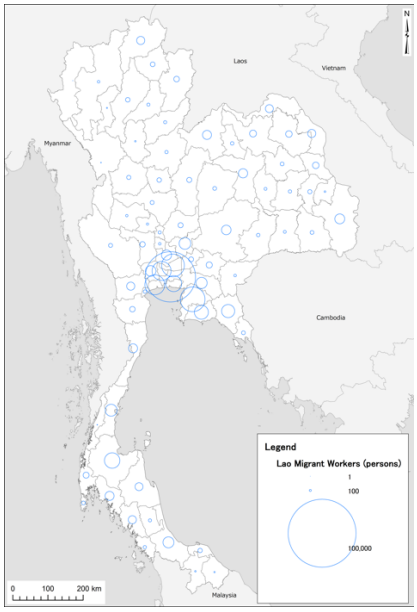

図 3　ラオス人労働者の都県別分布（2011 年末）
出典：タイ労働省雇用局データより作成

この種のラオス人労働者が就労する産業や職種などを明らかにすることで，タイ国内の労働市場や地域経済に外国人労働者の流入が与える影響を理解できる。

(2) ラオス人労働者の国際移動の実態把握

そこで，ノーンカイ市とウドーンターニー市で就労するラオス人労働者 100 人に対し，彼らの就労内容を実証的に明らかにした。

彼らのほとんどは中小零細なサービス産業に雇用されており，労働集約的な低熟練労働に従事する。それでもラオス人の平均給与は月額 8,940 バーツ(268 ドル)で，これは当初想定していた額よりも極めて高い（図 4）。なお，ラオスでの平均賃金は月額 90 万キープ(111 ドル)であるため，所得格差が彼らの海外就労を促す背景にあるとみられる。すなわち，少なくともフォーマル・セクターで就労するラオス人は経済的な豊かさを獲得できて

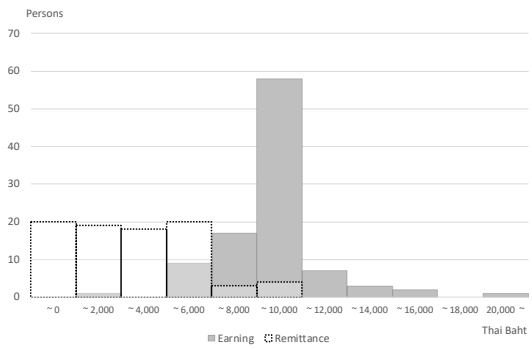

図 4　ラオス人労働者の所得と送金額
出典：現地調査結果より作成

いると考えられる。それはまた，ラオスに暮らす家族への多額の送金に反映されている。そしてその送金の手段は，人の手を介したものが主で，そのためラオス人労働者も頻繁に国境を行き来している。

国境を行き来する手段を確認すると，彼らのうち70%はすでにパスポートを所持して合法的に入国している。さらにパスポートの所持者は持っていない者に比べて給与が 900 バーツ，率にして 10%分も多い。パスポートの取得には，平均して 3,000 バーツの費用を彼ら自身が負担しなければならないが，合法的に入国し合法的に就労した方がより多くの給与を得られるとなれば，中長期的に就労を希望する彼らにとって，合法的な国際移動は合理的選択となっていると考えられる。

国境を越えてタイ-ラオスを往来する頻度は，平均で年間 34 回，中央値で年間 12 回である。インフォーマントの人数で捉え直すと，48 人は月に 1 回以上の頻度でラオスに戻っており，タイ-ラオスの国境をまたいだ行き来が激しいことが明らかとなった。このような動きは，労働力不足の問題を抱えるタイの地方都市という場所の条件と，タイ-ラオス間の経済格差という経済的条件，タイ政府の外国人労働者管理制度という制度的条件の種々の条件の影響の結果である。

国境を挟んで居住地と就労地が近接していることがこのような移動を形成する背景となっている。このような特徴は二国間の所得格差という経済的な人口移動モデルに当てはまるだけでなく，二国間の労働者の送受システムに支えられた Transnational Migration の人口移動モデルとして捉えることもできる。

インフォーマントの中には，「AEC によってタイでの就労がより容易になることを期待している」と述べる者もおり，東北タイの国境周辺の都市では労働者レベルでの単一経済化が進んでいると位置づけることが可能であり，上記の条件が変化しない限り，これが今後も深化していくと考えられる。

最後に調査手法としての課題を整理しておく。本研究の調査対象者はスノーボールサンプリングによって選定しているため，母集団代表性を担保できていない可能性が高い。それゆえ，比較的良い状況にあるインフォーマントだけを分析しているかもしれず，分析結果ほど実態は良くないかもしれない。それは，非合法的に滞在または就労したり，あるいは人の目のつきにくい場所で就労を強いられたりしている場合に，調査の網から抜け落ちしている可能性があるためである。このような問題を解決するためには，エリアサンプリングなど他の調査手法も併用するなど，データの信頼性を高めていく必要がある。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　4 件）

①丹羽孝仁・中川聡史，ラオス中部農村におけるバンコク出稼ぎ，日本人口学会，東北大学（宮城県仙台市），2017 年 6 月 11 日.

②丹羽孝仁，統計データにみるタイの人口動向，国立社会保障・人口問題研究所「東アジア，ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」研究会，国立社会保障・人口問題研究所（東京都千代田区），2016 年 11 月 11 日.

③NIWA Takahito, “The Characteristics of Population Movement and Work Condition of Lao Migrants in Thailand: A Case Study of Northeastern Thailand”, 11th Japan-Korea-China Joint Conference on Geography, Hotel New Otani (Sapporo, Japan), 12th September 2016.

④ NIWA Takahito, “Spatial Patterns of population migration in Thailand: Analyzing Population Census 2010”, 33rd International Geographical Congress, China National Convention Center (Beijing, China), 22nd August 2016.

〔図書〕（計　1 件）

①神谷浩夫・丹羽孝仁編著，若者たちの海外就職-「グローバル人材」の現在-，ナカニシヤ出版，216 頁，2018 年 3 月.

６．研究組織
(1)研究代表者
丹羽　孝仁（NIWA, Takahito）
帝京大学・経済学部・講師
研究者番号：１０７３６２６８